



碧南の図書館友の会編集
碧南市鶴見町1-70-1
電話 0566(41)0894
No. 142 2023年3月
編集責任者 小島 逸男

リサイクル本バザーの御礼と報告

友の会 会長 小島 逸男

碧南の図書館友の会での最大行事「リサイクル本バザー」が、3年ぶりに2月4日と5日に開催され無事終わりました。来場された皆様と運営に協力していただいた会員の方々に、御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

開催までの経過など

コロナが、まだ完全に収束していない中で、準備を進めてきました。11月に開催を決めて、準備に入りました。12月の各サークルでの会合時に、お手伝いの募集ができるように、各世話人に集約をお願いし、例年は開催しない12月の世話人会を12月21日に開催して、各サークルの1月の例会で展開できるようにしました。

最終の準備状況を1月25日世話人会で確認する予定でしたが、突然の大雪で、世話人会は中止されました。ほぼ役割分担が出来ていたもので、電話連絡だけで、3日後の、寄贈本受付の体制を作り、リサイクル本バザーをスタートさせることが出来ました。



市民提供本の受付



1月28日(土)29日(日)には、市民提供本の受付をしました。コロナ禍で、自宅の整理をされた方が多かったのか、比較的多めの3,176冊の寄贈を受け付けました。

前日のたんぽぽニュースの告知記事に誤った情報が出てしまい混乱しました。市の広報では受け付けないとしましたが、反対に「全集や百科事典を募集」、と書かれていました。図書館への問い合わせなどもあり、若干全集や百科事典が持ち込まれましたが、大混乱するほどの大きなトラブルにはなりませんでした。

終活や整理などで、大量に書籍が出て来ていますが、公的機関で引き取ることは、保管スペースや整理工数の関係で、どこも対応できずに焼却処分に回っています。デジタル化やIT化で活字本の新刊は減る傾向にありますが、まだまだ安価な本の需要は多く残っているとおもいます。市中には、古本を取り扱う、新しいタイプの書店も増えています。友の会のリサイクル本バザーは、経済的に成り立たない古本を再利用するサイクルに乗せることができる役割を持っているので、今後も存在価値が続くような気がします。



市民提供本は、初日28日に、2,089冊40名 29日 1,087冊33名と、合計 3,176冊73名となりました。来場者の一部には、スマホで転売価格を調べている、転売目的のグループがありました。掘り出し物が多いということでしょうか。



リサイクル本バザー当日

開館前に、約40名の方々が集まって見えました。コロナ前は道路まで、200-150人ほどが並ばれていたのですが、整理券を準備して対応しました。最初に30人入場していただき、様子を見て、残りの方に入らせていただきました。以降は、特別な混雑もなく整然と入場してもらうことが出来ました。雑誌の無料配布がないため、来場者が分散されていました。文庫本などの小型本を、机の上に並べて見やすくしたり、大型本、全集などを分離したりしたので、二日間整然としたバザーが実施出来ました。

販売金額収益など

販売は、初日4日 1,372冊、5日678冊 合計 2,050冊 販売合計金額 77,250円 無料購入券回収数127枚でした。コロナ前の、約70%の数字が出ました。

人員、金額共に、減少しました。減少の大きな要因は、雑誌の無料配布の日程が変更され、喫茶も無くなり、参加者が減った事のようにです。コロナ対策の為、密集化を防ぐ必要があり、やむを得ない条件でした。喫茶コーナーが無いことを伝えると、帰る人もおり、意外に人気があった事もわかりました。しかし、材料費の高騰と、友の会メンバーの高齢化、感染対策などで、元に戻すことは、困難になっています。リサイクル本バザーを盛り上げるためには、入場者を増やしていくことが必要で、更に工夫、対策が進めていくことが求められています。



本の整理など、友の会メンバーのべ人数は、半日単位で約70人工でした。

図書の整理や並べには、一時的に多くの人工数が必要となり、図書館の館長を始めとした、職員の方にも、応援して頂きました。(ありがとうございました。)

喫茶をやっていた頃は、約100人工でしたので、70%になりました。サークルの減少やメンバーの高齢化に見合った必要人工数の減少でした。



収益金は今回約 60,000円でしたが、令和元年度約 70,000円平成30年度約 57,000円とほぼ同じ収益になっています。喫茶提供自体は、良い材料を使っていることもあり、従来も赤字になっていました。

収益金は、図書館へ寄付するブックカートや絵本などに使っていましたが、2年間収益無しであったため、今年度は中止しています。収益が出せる目途が立ってきたので、来年度からは復活させる予定です。

図書館友の会視察見学会に参加して

フリー会員 木村妙子



3年ぶりの見学会の目的地は日進市立図書館、岩崎城歴史記念館でした。コロナ禍のバス利用制限があり参加者も12人と少数、でも久しぶりに楽しい一日でした。

日進市は名古屋市のベッドタウンで若い世帯の多い市。開館14年目の図書館は斬新な建物、システムを取り入れています。小学生のタブレット利用、館内のデスクトップ数36台、図書除菌機、学習予約システム、雑誌スポンサー制度、職員さんの説明からいろいろな工夫と努力を感じました。



興味深かったのは、同市は大学が多く、留学生と子供達の係わるイベント、母国の蔵書紹介などが碧南にはないところでした。バックヤードでは本の修理ボランティアの方々が多数作業をされていました。

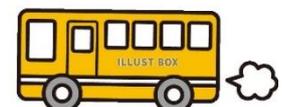
碧南市の名前の由来は「碧海郡」の南端で「碧南」。日進市は、明治39年町村合併時に日露戦争に活躍した「戦艦日進」にあやか肖って付けたとの説があり珍しいケース。



見学会当日は晴天で、岩崎城と歴史記念館、最上階の展望は良く碧南にはない丘陵地帯。

ここは尾張と三河の国境、交通の要所に城があります。重要な小牧長久手の合戦での碧南との関係や「三河中入り」(池田恒興、永井直勝、本願寺、家康、秀吉)のはなしを小島会長さんから行きのバスの中で説明がありました。

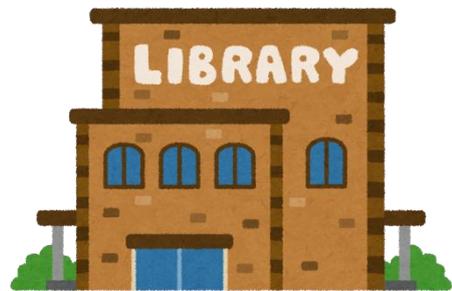
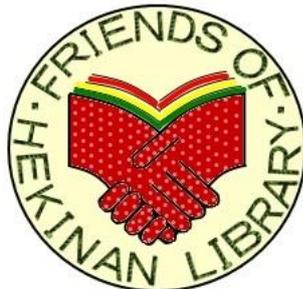
今回はコロナ禍の中、開催に努力をしてくださった役員の方々に感謝し、来年を楽しみにしています。



碧南の図書館友の会 総会のお知らせ

令和5年度の碧南の図書館友の会の総会が下記の通り開催されます。
会員各位のご出席をお願い致したくご案内します。

開催日時 令和5年4月26日(水)午前10時から11時
会場 碧南市民図書館本館2階会議室
議案 令和4年度事業及び決算の報告
令和5年度事業案内及び予算案の審議
碧南市民図書館本館、中部、南部分館の館長さんも来賓として出席されます。



令和5年度友の会会員募集

会費 一人年額500円(令和6年3月31日まで)
運営 会で選出された世話人が相談して運営します。

入会されますと

- 会報「航海日誌」(年5回発行臨時号含む)をお届けします。
- 友の会主催の視察見学会への参加資格が得られます。(昼食費自己負担)
- リサイクル本バザーの購入券を差し上げます。

お申込みお問い合わせ

碧南市民図書館本館電話0566-41-0894

◎申込用紙は図書館本館カウンターにもありますので、おたずねください。